

創立30周年 平成28年度
専門学校静岡電子情報カレッジ30期生
静岡福祉医療専門学校18期生

の学生諸君 ご卒業おめでとう！
理事長・校長 中村 徹

本学創立30周年という記念すべき平成28年度卒業生の皆さん、「卒業証書及び専門士の称号」授与おめでとうございます。

学生生活の集大成として、皆さんのキャリアデザインを形にすることができましたか？

皆さんは本学独自の専門職中核的人材育成教育に、産業界や医療・福祉界、幼児教育・保育等の第一線の各業界人の指導も受け、**産学連携で実践的職業教育プログラムにより育成されたスペシャリスト**として社会へ旅立つところまでできたのです。これからはしっかりと社会的責任を自覚し、社会評価を得て、本学の教えでもある「**仕事を通して自己実現を図り**」、プロフェッショナルとしてその道の達人を目指すのです。

さて、皆さんが旅立つ社会的背景は、忘れることはできない平成23年3月11日14時46分に発生した東日本大震災。2万人の方が逝去され、6年目を迎えた今日でもまだ行方不明者が2千5百人おいでになる。様々な思いをもち、この悲劇的な惨禍を体験して生き延びることができた私たちは、本学園の創設者の教えにもある「**生かされていることの意味**」を自らに問いかけながら、「より良き未来」を創造していくことで、復興・再生に向けて、力を注ぐ義務がある。特に、可能性を秘めた若い君たちには、今後、人間は自然の脅威にどのように向き合い、それぞれが自覚的に何をしていくのが問いかけているのです。

我が国の経済においては、消費税率引き上げが見送られ、景気の底割れは回避され、円安ドル高から日経平均株価が久しぶりに2万円をつけた。しかしながら、イギリスのEU離脱やアメリカ新大統領トランプ氏の誕生で一国中心主義、経済至上主義が目立ち、TPPへの今後の対応、金融市場は不安定化、急激な為替変動、新興国経済の減速、少子高齢化のもとで人口減少に超高齢化、「**国の力**」といわれる生産年齢人口の減少、人口減少による国内消費の伸び悩みなどにより、企業を取り巻く経営環境は不透明感を増し、社会保障の抜本的改革など、切羽詰まった真剣勝負が求められている。また、熊本地震や東北地方の大雨被害など、自然災害が頻発し、サプライチェーンの寸断や農水産物の価格高騰などにより社会経済に大きな影響をもたらしている。

一方、静岡県では全体としては緩やかな回復基調が続いているが、景気回復の実感乏しい状況にあり、人口減少の加速化に伴い、あらゆる業種で人手不足が深刻化し、特に介護職や保育士不足が地域社会の生活や文化を持続的かつ発展的に維持することが困難になりつつあり、それを克服するためには、地域の人材を確保し、育成することが、地方の喫緊の課題となっている。

さて、資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がみられる中、「**人材**」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「**実践的な職業能力を有する人材**」
- ② 将来にわたり「**付加価値を創出する質の高い人材**」
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「**国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材**」

などの**社会基盤を支える「ヒトづくり**」が急務といわれる。しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率20%（うち後期高齢者8%）、生産年齢人口（「**国の力**」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率40%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

そして第4次産業革命といわれる新たなビジネス領域創出手段としての、あらゆるものがインターネットにつながるIoT、ビッグデータやクラウド、AIの利活用、時代の流れに適応した働き方革命の推進や地域連携が求められている。

このような時代において**本学の教育**は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、IoT、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「**インターンシップ**」や「**産学連携プログラム**」等の「**企業人との交流**」を通して、「**社会人基礎力**」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「**統合力**」、「**問題発見・解決力**」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいる。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「**職場実習**」、「**ボランティア活動**」を通して「**職業観のイメージ付け**」や身につけなければならない「**社会人基礎力**」に「**専門スキル**」を自らが認識できるような教育プログラムを構築している。

このような中、学校法人中村学園専門学校創立30周年記念年が平成28年4月スタートし、9月21日から5日間、過去にはなかった大々的な**創立30周年記念事業文化祭・学園祭「刻む～仲間とともに**」が幼稚園・託児所参加で開催された。

9月23日には同窓会一同で寄贈いただいた「**創業者中村忠雄氏胸像**」除幕式を封切に、電子の「**産学連携教育プログラム成果発表会**」と福祉の**パネルディスカッション「防災と減災**」、続いて24日には「**地域交流イベント**」が開催された。

9月25日（日）**高校生ICTカンファレンス**に続いて、**創立30周年記念式典が同窓会と共催**でホテルセンチュリー静岡5階センチュリールームを会場に開催された。休日にも関わらず、国政からは赤池参議院議員、県政は佐野元県議会議員（第100代議長）、市政から繁田市議会議員（直前議長）、また公益社団法人静岡県職業教育振興会会長中村徹に代わり副会長堀田先生等多くのご来賓にご臨席いただいた。

記念講演ではミスユニバース世界大会優勝者森理世氏講演テーマ「**夢は自分の手でつかむ**」まさに夢実現への経験談を聞かせていただいた。

また、式典に続いて**30周年記念同窓会総会・祝賀会**が開催され、1期生から29期生に至るまで多くの懐かしい卒業生たちと退職教職員にも参列いただき、和やかな中で在学当時や現況報告、異業種交流・人脈拡大の場として花が咲いた。後日、学生会では30周年事業での収入を2015年4月に起こった「**ネパール大地震復興募金**」として県ボランティア協会に寄付。学園と学生会・同窓会との**スクラム組んでの企画・運営**でした。**30周年大イベント、成功裏の開催おめでとう！！**

創立30周年記念「卒展」

平成28年度集大成 **卒業研究・ゼミ成果・ケアスタディ発表会** 今年は企業人、卒業生、保護者、高等学校教員、非常勤講師、学校関係者等もご参列いただいた。発表会においては、電子では完成度の高い研究内容であり、制作プロセスやターゲット設定がよくでき、コンテンツとの整合性も高く、プレゼンもポイントを押し、「**新付加価値**」創造につながる研究発表がなされた。

そのような中で、**1年生の成果発表**が内容は勿論、発表態度といふ来年度の発表会に期待を持たせてくれるようなプレゼンで楽しみます。

また、福祉では各学科とも創意工夫して、時代を反映したテーマで、それぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「**若い感性**」による上達したプレゼンに発表態度・内容ともに称賛の拍手を送った。

残してくれたみんなの集大成は、本学の財産である！！特に、電子の「**産学連携プログラム**」や「**コラボによる付加価値創造**につながるレベルの研究」、福祉においては「**地域に開かれた専門学校**」に基づく「**ボランティア：地域活動**」等の後輩への継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

今年度、創立30周年を迎えることができたのも、偏に皆様からのご厚情とご支援の賜と衷心より御礼申し上げます。特に、同窓会1期生からの卒業生諸君の社会での「頑張り」と母校への「思い」のおかげと心より感謝申し上げます。今後とも良き母校、母港としてご支援・ご協力をお願いします。

本学では「**全人教育**」を根幹として、「**建学の精神**」である創設者の教育理念を継承し「**パイオニア(開拓者)の精神**」を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に**試行錯誤**の中から**クリエイティブな精神**を培い、**独立自尊**以って広く**国際社会**に貢献する**人格の形成**を重点とする。「**具現化**:大いなる飛躍の為には、より恵まれた環境(人的・物的)があってこそ21世紀を担う、若人の夢の実現を可能とする。」及び

「**技術は力なり、我は我が道を行く**。How to 人間でなく、Why 人間の育成」の「**校訓**」を指導目標にして、その上に、学生たちが社会に出てから困らない**社会人基礎力**に**問題解決能力**と**専門性**を身につけた**人材育成**を目指し、学生たちが**職業人**として、**技術のスペシャリスト**であるとともに、**人間性豊か**で、「**日本人としてのアイデンティティ**」を持った21世紀を担う**社会人**として、時代に即応した**職業人の育成**に尽力してきた。

その結果、創立以来就職決定率100%を誇るのも、当学園の教育内容に対する社会的評価といえる所以であると自負し、専門学校創立以来30年、すでに5,000名以上の有用なる人材を社会に送り出している。

また、運動部の対外成績では女子バレーボール部が静岡県専門学校大会で頑張ったがリベンジならずの3位。サッカー、野球部は県大会ベスト8進出。今年も頑張りました!

「海外研修・修学旅行」は専門学校静岡電子情報カレッジはICTメッカアメリカ西海岸シリコンバレーで、フェイスブック、グーグル、インテル等をはじめとする世界有数の企業や現地のIT系・ビジュアル系専門学校等を訪問し、最先端テクノロジーに見聞を広めることが出来た。

静岡福祉医療専門学校はハワイで異文化や伝統に触れ、また、ハワイ大学生との交流セミナーにおいて、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。必ずや今後のグローバル社会の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深まりよき思い出となったことだろう。

これまでの学校生活で、様々なことを学びかつ研究を行うことで、考えを深めるとともに、その考え方にも、解決のプロセスにも多様性があることを学んで来た。

『他人の視点でモノを見て、モノを考える』ことにより、自分自身をもっと知ることができると同時に、他人との連帯を築き上げ、社会的課題を解決することができるようになる。そして、より重要なのは、一人ひとりの視点がどれが正しいかを定めるのではなく、自分とは異なる他人の視点を認めるという「**多様性の価値観を共有すること**」なのです。

I was born. Keep alive. 「人は、生まれ、生かされている」、「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としての**アイデンティティ**」を持ち、仕事を通して**自己実現**を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長先生の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「**りっぱな日本人**」になっていただきたい。

社会に出て、本学の教えである、常に何事に対しても、日々「**前向き**」に、「**試行錯誤**」の中から「**自己実現**」を図り、「**これだけの事をやったんだ**」という「**自信**」と「**誇り**」を持って、君たちの時代を築いてください。

そして、たまには学校に寄って、近況報告を楽しみに待っております。それでは、健康には十分留意され、

君たちの新たな旅立ちに、心より幸多きことを祈る!

Good Luck!

今後も学校法人中村学園両専門学校は、「**学生満足度**」・「**就職先企業満足度**」・「**家庭満足度**」・「**地域満足度**」・「**教職員満足度**」を高めていくことを追求し、学校法人中村学園の社会的価値向上のために精進していきます。

先生方からのメッセージ

教頭・教育部長 有賀 浩

卒業おめでとう!

昭和60年に南町キャンパスにスタートして**30周年**を迎えた本学。当時想像もつかなかった30年後。IoT、ビッグデータ&クラウド、AIなど、それぞれ進化してきた分野が密に連携。それらを誰もが自由に活用できる今。そこに新たな「**付加価値**」を創造しない限り、どの分野も生き抜いていくことはできません。

4月からプロフェッショナルとしての人生を歩み始める卒業生の皆さん。如何なる時代にあっても、本学の「**全人教育**」を通して身につけた、元気よく笑顔で心から湧き出す「**挨拶**」で、明るい未来を築き、大きな幸せをも創造していきましょう!

いつまでも夢を失わず、確かな信念と技術を人生の軸とし、**校訓**「**技術は力なり、我は我が道を行く**」、仕事を通して常に**自己**を成長させて行ってください。

みなさんの笑顔に再会できる日を楽しみにしています!

進路室長 橋野 幸男

ご卒業、おめでとうございます。今後の職業生活で大切にしたい「**3つのM**」を、某シンクタンクのモットーを参考に述べます。一つ目のMは、「**Myself**」です。皆さんそれぞれの「**専門性**」を磨き続け、同時に、「**健康**」に留意して、生き生きとご活躍ください。

二つ目は、「**Market**」、つまり「**顧客志向**」であれ、ということです。そして、更に広く「**社会**」全体の動向に目を向け、**携わる仕事の価値・社会的存在意義**を考えていってください。

最後は、「**Mutual Respect**」です。社内外の様々な人と、「**お互いを尊敬し**」刺激し合い、優れた「**チームワーク**」を発揮してください。

関連して、「**自分にとっての『取締役会』**をつくりなさい」という言葉を添えます。皆さんの日常を見守ってくれる先輩などアドバイザーを数人見つけて、彼らに定期的に**自分の成長とキャリアの進展**を**チェック**してもらおう、ということです。

皆さんが、本学の教え「**自己実現**」の途を邁進することを願っています。

事務長 寺田 剛敏

皆さんは卒業証書授与式を境に、学校という環境で、学生という肩書きによって守られてきた『**加護**』を受けることができなくなります。自らの力で様々な環境に適応し、突き進まなければなりません。

もちろん、学校で身につけた技術や知識はそのために必要欠くべからざる能力ではありますが、厳しい環境下で受ける様々な『**経験**』の蓄積は、より重要な要素となるはず。自分にとって、きつい、辛い体験であっても、それはやがて自分を資するものとなるはず。逃げることなく、立ち向かってください。これから皆さんの進む道に幸多かれと祈っております。

ICT 情報システム学科学科長 2年担任 早崎 賢治

インド独立の父、マハトマ・ガンディーの言葉「**明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。**」を贈ります。「失敗したらどうしよう」とか「嫌われたらどうしよう」など、ネガティブな考えで行動を躊躇した時は、今日が人生最後の日だと考えてみてください。日々の悩み事は小さいことだと感じ、前に進む勇気が湧いてくると思います。そうやって1日1日を大切に生きてほしいと思います。

しかし、どうせ人生が終わるなら、周りに迷惑をかけても、刹那的な快楽や怠惰な生活を求める人もいるかもしれません。そんな人は、言葉の後半を思い出してください。社会に出てからの方が色々な経験を通して学び、自身を成長させる機会が多いものです。私は**自分自身を成長させていくことが、人生最大の喜びだ**と考えています。他人と比較するのではなく日々の自分を比較し、その成長に価値があるものだと気がつけば、積極的に行動できるようになります。行動に見返りを求めず、周りの役に立っていること自体に充実感を得られるようになれば、とても幸せな人生になると思います。

卒業生のみなさんの幸せを心よりお祈りしております。